



9月の社会科「水害からくらしを守るはたらき」では、水害からくらしを守る国・県・市・地域・学校・家庭の取組について学習しました。

まずは岡山県や倉敷市で過去に起きた災害の様子が分かる年表を基に話し合い、学習問題を作りました。



水害からくらしを守る地域での取組として、私たちの生活する老松小学校の避難道具や防災設備を調べました。老松小学校には、駐車場に緊急用のトイレを設置することができる仕組みが整っていたり、非常食などがたくさん保管されている備蓄倉庫があったりするなど、避難所としてのはたらきをもつことが分かりました。子供たちは、実際に避難道具や設備に触れ、「段ボールで作るトイレがあるよ。」「消費期限が5年もあるペットボトルの水があるよ。」など、驚いていました。



地域の人から頂いた資料を基に、台風で浸水した場合に、どんなことで困るのか実際の写真を見ながら話し合ったり、ICTを活用して、国や県の取組について動画を視聴したりして、くらしを守るはたらきについて具体的に知ることができました。学習したことが、自分の身を守るための知識として役に立ってくると嬉しいです。

一学期からの学習の積み重ねとして、発言内容が具体的になってきたと実感しています。振り返りにについても、学習する前と後で「分からなかったことが分かるようになった。」や「次の学習では〇〇を調べたい。」など、積極的な感想をもつ児童が増えてきました。また「家族で避難訓練をしたよ。」「どこに避難するか話し合ったよ。」など、授業以外の場面でも、学習したことを話題にしている児童がいました。

